

LIBERTY

学園広報誌[リバティ] 九州共立大学／九州女子大学／九州女子短期大学

vol. 13
2015
Autumn

■特集

地域とともに未来へ

学是自律処行
福原学園



【福原軍造 書】

「蟄龍三冬臥 老鶴萬里心」で始まる杜甫の詩を書いたものである。

詩の意味は、「老いたる鶴は千里先まで飛ぼうとする心を抱いている」と解される。

筆を少し右に傾けた側筆という書き方で、線が構成されている。

この筆法は、線の力強さと率意性(心情)の表出が特徴である。

杜甫が生きた時代は「人生50年」と考えられていた。

本学園は、平成24年度に九州女子大学が創立50周年を過ぎ、平成27年度には九州共立大学が50周年を迎える。

まさにこの作品は、創立者の心境であろう。

創立者・福原軍造の示唆をこの「書」からくみ取り、力強く未来へ進みたい。

このような気持で、この「書」を鑑賞してみてはどうだろうか。

【解説】九州女子大学 人間科学部 人間発達学科
准教授 古木誠彦

LIBERTY

学園広報誌[リバティ]
九州共立大学／九州女子大学／九州女子短期大学

vol.13
2015 Autumn

事務局：福原学園 法人事務局 総務部 広報室
TEL：093-693-3083
URL：http://www.fukuhara-gakuen.jp/
発行：学校法人 福原学園
発刊日：平成27年9月30日

Contents

福原学園 理事長就任のごあいさつ

学校法人福原学園 理事長 福原 公子

九州共立大学 学長就任のごあいさつ

九州共立大学学長 奥田 俊博

■特集

地域とともに未来へ

九州共立大学「地域連携推進室」、
九州女子大学・九州女子短期大学「地域教育実践研究センター」を開設

〈特別対談〉

九州共立大学 地域連携推進室 室長 古市 勝也

九州女子大学・九州女子短期大学 地域教育実践研究センター 所長 古城 和子

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学では、大学の人的・物的資源をさらに地域に役立てるため、それぞれ地域連携推進室、地域教育実践研究センターを発足させた。両施設の室長、所長が設立の意義と抱負を語る。

地域で頑張る学生たち

2015年カラーラン北九州大会 ボランティア 平山 明歩さん

2015年北九州マラソン 救護ボランティア 森 裕之さん

堀川一斉清掃ボランティア 山形 翔平さん

防犯ボランティア 仮屋崎 まいさん

学童クラブ保育ボランティア 蛸原 麻貴さん

中間市民図書館 図書館ボランティア 今瀬 菜波さん

【私が教えていること】教員インタビュー

九州共立大学 スポーツ学部 助手 花田 道子

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 講師 春高 裕美

【あしたを走る】OB・OGインタビュー

TOTO株式会社(平成26年九州共立大学卒業) 星川 誠さん

北九州市 小学校教諭(平成27年九州女子大学卒業) 平田 奈津美さん

【Liberty Topics】

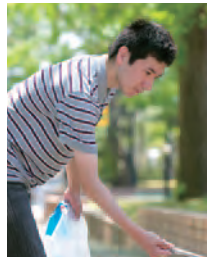
九州共立大学創立50周年記念事業 二宮清純氏 記念講演会／
九州女子大学・九州女子短期大学新棟「弘明館」建設進む

九州共立大学 第51回 霜月祭

九州女子大学・九州女子短期大学 第55回 華秋祭



02



12



16



20

21

Message from President

福原学園 理事長就任のごあいさつ



学校法人福原学園 理事長

福原 公子

平成21年、日本大学商学部卒業。同23年、桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科修士課程修了。平成12年、福原学園法人事務局総務課に入職。以後、福原学園理事、同副理事長、九州女子大学・九州女子短期大学副学長などを歴任。平成27年6月、福原学園理事長に就任した。高等教育質保証学会会員、日本キャリアデザイン学会会員。

この度、福原弘之前理事長の退任を受け、平成27年6月19日より福原学園理事長に就任いたしました。これまでは副理事長として理事長をサポートする立場でしたが、学園の将来を担う立場に身を置くことになり、その重責をひしひしと感じ身の引き締まる思いです。就任にあたっての私の心構えは、本学園に寄せられる地域社会からの期待と要請に応えることができるよう、今後も前理事長がめざしていた学園作りを継承し、理事長職務に精励してまいります。

前理事長がよく申しておりました言葉の一つに「原点への回帰」があります。それは学園の草創期に荒れ野を耕した先達の苦勞に思いを馳せ、その強靱な精神を私たちがしっかりと受け継ぎ、将来の困難な局面に立ち向かい、学園の発展に寄与し社会に貢献していくことだと思っています。

以上の決意を胸に、保護者の皆様からお預かりしました学生の皆さんが充実した学生生活を送ることができるように学習環境の整備を行い、就職などの進路指導につきましてもより実践的なキャリア指導・キャリア教育を行い、学生の皆さんが自己実現を図ることができるように、全力を尽くしてまいります。

どうぞ、ご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

九州共立大学 学長就任のごあいさつ



九州共立大学学長

奥田 俊博

平成元年、埼玉大学教育学部卒業。同11年、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科修了。博士(文学)。平成12年、九州女子大学文学部講師として教鞭を取る。以後、同大文学部助教授、人間科学部准教授などを歴任。福原学園理事を経て、同20年、九州共立大学副学長に就任。九州女子大学副学長も兼任しながら、同27年6月、九州共立大学学長、同年8月に福原学園副理事長に就任した。

平成27年6月20日より、九州共立大学学長を務めることとなりました。今年、創立50周年を迎える九州共立大学の学長を務めるにあたり、身の引き締まるものがあります。

今後も、福原弘之前学長の方針を引き継ぎ、九州共立大学で学ぶ学生が、夢をもって未来を切り開き、多様な人々と協働して社会に貢献できる人物になれるよう、教職員が一丸となってサポートする体制を充実させていく所存です。また、「学生と教員が共に立つ」という大学開設の原点を忘れることなく、地域社会との連携をより一層深めて、次の50年に向けて教育体制を充実させてまいります。

九州共立大学が、社会に適應できる自立した職業人を養成する大学を目指し、教育活動の充実や学生支援の充実等を基本目標にして、各学部の教育課程編成方針に対応した教育活動を展開していくためには、福原学園に関わる皆様方の協力が不可欠です。今後も、ご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

地域とともに未来へ



九州女子大学・九州女子短期大学
地域教育実践研究センター 所長
古城 和子
人間科学部学部長



九州共立大学
地域連携推進室 室長
古市 勝也
スポーツ学部特任教授

九州共立大学
地域連携推進室 室長

古市 勝也

九州女子大学・九州女子短期大学
地域教育実践研究センター 所長

古城 和子 特別対談

九州共立大学「地域連携推進室」と
九州女子大学・九州女子短期大学

「地域教育実践研究センター」を開設

「地域と手を携え、繁栄めざす」

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学では、大学の人的・物的資源をさらに地域に役立てるため、九州共立大学は地域連携推進室、九州女子大学・九州女子短期大学は地域教育実践研究センターを発足させた。両所長が設立の意義と抱負を語る。

地域問題を大学と協同で解決 文部科学省COC+事業の意義

雇用の衰退や超高齢化、災害に対する備えなど、地方にはさまざまな問題が山積している。このような地域ごとに抱える問題を解決するため、地元企業や行政と連携し継続して取り組む大学に期待が寄せられている。文部科学省はそういった地方大学を「地（知）の拠点」と位置づけ支援する「COC+」事業を開始。全国で地域と大学の協同が広がっている。

**地域の要望に迅速に対応
窓口をまとめ、
情報を一元化**

古市 今、世の中の大きな流れとして、地域に役立つ大学が求められています。文部科学省では今年の1月、大学の地域志向を評価する「大学COC+事業」をスタートさせ、地（知）の拠点としての大学を見直そうという気運が高まっています。

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学では各大学の人的、物的機能を一般に開放した生涯学習研究センター（※1）があります。平成6年に大学開

放のセンターを発足させて以来20年にわたり、教職員の協力を得ながら地域のニーズに即した各種講演会や公開講座の開催、スポーツ支援などを行ってきました。また、社会福祉協議会や北九州市教育委員会との共催事業で自治体や商工会とのネットワークもつくりました。

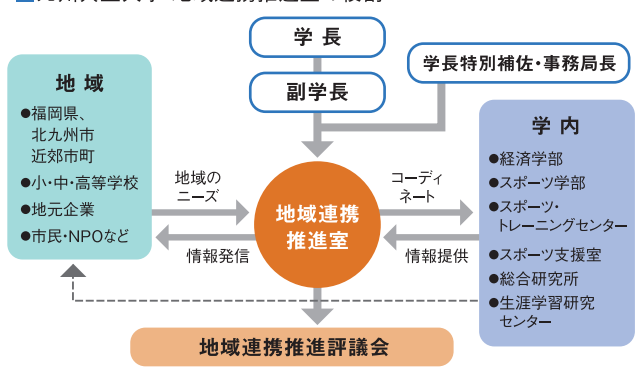
しかし、これらの活動は教員個人や学部レベルで行われることが多く、依頼や相談の窓口がわかりにくいなどの問題もありました。

古城 確かにそのことは実感していました。

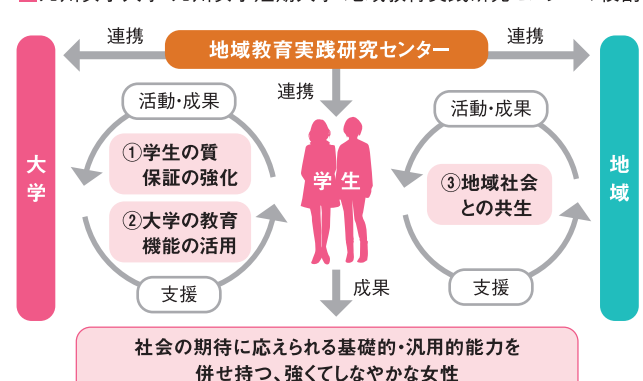
古市 そこで、九州共立大学では今年4月に地域連携推進室を設置し、これまでばらばらだった地域活動に関する情報を一元化。学内外に発信する窓口として機能させ、地元行政や産業界、NPO法人と連携し、大学の知的資源を地域ニーズに結びつけようと取り組んでいるところです。

古城 九州女子大学・九州女子短期大学でも今年の6月に地域教育実践研究センターを立ち上げました。センターは、地域に根ざした実践教育を展開する大学をめざして、地域との連携を大切にしています。柱のひとつ

■九州共立大学 地域連携推進室の役割



■九州女子大学・九州女子短期大学 地域教育実践研究センターの役割



社会の期待に応えられる基礎的・汎用的能力を
併せ持つ、強くてしなやかな女性
〈前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の体得〉



が、社会の期待に応えられる学生のさらなる育成と強化です。九州女子大学・九州女子短期大学の多くの学生が教員免許や資格を目標に学んでいます。しかし、社会経験が乏しい学生は、座学や教育課程内の実習だけでは仕事に対する理解や適応力が不十分で、卒業生の早期離職という問題も起こります。地域の大学としてさらに質の高い教育を行い、社会で生き抜く力を付けさせなければなりません。

まず取り組んでいるのが、中間市や北九州市教育委員会や各幼稚園・保育所と提携し、市内や近郊の幼稚園・小学校へ学生を派遣する「グリーンティーチャー」(※2)です。また、教育

大学は「地」の拠点として
緊急時などに貢献します。

(古市)

委員会が主催する放課後学習支援「ひまわり学習塾」でのボランティアや、企業の障がい者雇用のための問題解決型インターンシップへ学生を派遣し、現場を体験させています。学外実習を行った学生は就業への意欲も高まり、現場での対応力を身に付けています。

古市 それは素晴らしい取り組みですね。

古城 しかし、地域からのオフアワーは学生支援課や教務課が個別に対応しており、教職員の負担が課題となっていました。学生も、カリキュラム内の講義や実習で忙しいなか、十分な準備ができないまま、ボランティアに参加してしまうと本来のカリキュラムに万全に取り組むことができなくなってしまうます。これでは本末転倒ですね。

そこで、窓口を一本化して情報の流れを整理すること、またセンターが仲介することで二



ズにマッチした学生を派遣し、企業にも学生にも最善の環境を整えようと考えました。

大学は
人的・物的資源の宝庫
地域へ還元し、
まちづくりに貢献

古市 九州共立大学ではスポーツ学科の学生に対し、幼稚園・小学校の授業補助や小・中学校のスポーツ教室での指導・合同練習といったオフアワーがあります。しかし、運動部に所属する学生にはスケジュール調整が難しいという問題もありました。部活動をサポートするスポーツ支援室と情報共有することで、



3年生の授業補助



帰りの会でみんなとゲーム

3大学が
情報を共有すれば
地域に大きな力を
発揮できます。

(古城)



これからは学外活動が広がると思います。**古城** 学生にとっては学習するチャンス、地域にとっては学生の力を活用するチャンスととらえていただく、そんな流れをつくっていききたいですね。

古市 同感です。推進室では、北九州市体育協会、北九州商工

会議所との間で学生および教職員の派遣と調査研究の提携を結ぶ予定です。以前、岡垣町主催のスポーツカレッジがきっかけで教員の研究内容を知っていたが、自治体から調査依頼が来ました。これまでは講座に講師を派遣することがメインでしたが、自治体や団体と連携することでそういったニーズが新たに生まれ、教員のやりがいにつながっています。

古城 そもそも教員が地域で調査研究をしたくても、窓口はどこで手続きはどうすればいいか戸惑うことがあります。そんな場合もセンターが力になって、企業などと連携した研究をサポートできます。

古市 大学には「地」の拠点としての役割にも期待が寄せられていますね。広いグラウンド、食堂、耐震構造の校舎など、緊急

時に対応できる設備を持っていますから。すでに昨年、北九州市から緊急避難所の指定を受けました。また、九州共立大学では学生有志による学生消防隊も結成。大学での防災講座を一般に向けて開講しようという動きもあります。

古城 来春に新設される九州女子大学・九州女子短期大学の新校舎「弘明館」では、市民が参加できる地域関係の講座スペースを設けており、今後、研究会の会場として、また地域の中学生を対象としたひまわり学習塾などの開催も検討しているところですね。

古市 私がいうまでもなく、大学には素晴らしい人材(教員)と意欲ある学生、立派な施設が整っています。地域と大学がお互いに手を携えることでよいまちづくりができますし、学生も将来、地域で貢献する人になっ

てほしいですね。**古城** その通りですね。今回の地域連携推進室、地域教育実践研究センターの設置をきっかけに3大学が今まで以上に情報を共有することにより、もっと大きな力で地域に貢献できるはずですね。古市先生、お互いがんばりましょう。

九州女子大学 グリーンティーチャー派遣(※2)

平成20年から北九州市と中間市の小学校へ学習サポーターとして、平成24年からは大学周辺の幼稚園・保育所を中心に15園に保育ボランティアとして小学校教員、幼稚園教諭・保育士をめざす学生を派遣している。事前・事後の指導と学生の活動記録を徹底し、実際の現場を体験することで職業へのイメージを明確にすることをねらいとして活動中。

生涯学習研究センター(※1)

平成2年の生涯学習振興法を受け、平成6年に発足。広く一般市民や学生を対象に、本学教員による公開講座や各種学校との提携による資格取得支援講座、自治体や民間と共催・連携したイベントや講座を開催している。大学の特性を活かしたスポーツ支援講座や研修、ボランティアの拠点になるほか、全国の団体の研修場所の提供もしている。



生涯学習研究センター外観



森 裕之さん

九州共立大学 スポーツ学部 スポーツ学科3年
(宮崎県立延岡工業高等学校出身)

スポーツ学部で学びながらスポーツトレーナーをめざし、「学生アスレティックトレーナーサークルCARE」の活動に参加。主将として部員のマネジメントを任されている。そのかわり、ラグビー部の専属トレーナーとして選手をサポート。実践力を磨いている。現在、公認アスレティックトレーナーの試験合格に向けて勉強中。

目の前で起こったアクシデント プロの処置に ケアの基本を再認識

2015年
北九州マラソン
救護
ボランティア

平 成25年2月に始まり、約1万人の市民ランナーが走る一大スポーツイベントに育った北九州マラソン。九州共立大学の部活「学生アスレティックトレーナーサークルCARE」は、本大会に救護ボランティアとして参加した。担当エリア内でランナーに異変が起こった際は本部や救護班へ連絡し、状況によって一次救命措置も行う。同部活の森裕之さんは、スポーツトレーナー活動をするうえでいろいろな競技を見てみたという探究心から同マラソン大会のボランティアスタッフとして参加した。その本番のなか、担当するエリアでランナーが転倒し、一時的に意識不明に陥るアクシデントが起きた。

「目の前で起こった出来事に、頭の中が真っ白になりました」。でも、それは一瞬のこと。すぐに本部や救護スタッフへ場所や状況を連絡し、救急隊の処置へ繋ぐことができた。そのスタッフの的確な処置を見ながら、こういう状況で冷静かつ的確な対応をする難しさを痛感した。一方、いっしょに行動した消防士からは、過去の経験をふまえながら大会の流れを読み、事故が起こりやすいポイントを事前に把握するというプロの心構えを聞くことができた。

「人の命や安全を担うトレーナーは、あらゆるリスクを想定して準備する重要性を再認識しました」

この活動では現場を任されたランナーと交流したりして、大学とは違った充実感を得られた。さらに、さまざまな世代の方との触れ合いから言葉遣いや礼儀作法も磨かれた。「トレーナーとして最も大切な、人との信頼関係の築き方を学べたと思います」。

う振り返り、今あらためて気持ちを引き締めている。



北九州マラソンでは、九州共立大学から多くの学生がボランティアスタッフとして参加した。



平山 明歩さん

九州共立大学 経済学部
経済・経営学科4年
(久留米市立久留米商業高等学校出身)

高校時代はバスケの選手として活躍。所属する長野史尚ゼミではゼミ長を務め、定期的に参加するイベントで後輩を指導するほか、学生とイベント担当者との連絡や調整を任されている。明るいオーラが出せる人物が目標。将来はスポーツジムやスポーツ関連ショップを舞台に、スポーツの楽しさを伝えたいと思っている。

2015年
カラーラン
北九州大会
ボランティア

参加者も観覧者も ハッピーにする スポーツイベントの力を実感

カ ラーランとは、色とりどりのカラーパウダーを浴びながら約5キロメートルのコースを走るアメリカ発祥のスポーツイベントだ。「世界で最もハッピーな5キロメートル」といわれ、タイムを競うのではなく、誰でも参加できるイベントとして注目されている。

山さんの姿に、スタッフから「来てくれてよかったよ」という声をもらった。「力になったことが実感できて、うれしかったですね」

大会当日はカラースプレーをかける「カラーゾーン」にスタンバイ。走って来たランナーに声援を送りながらスプレーをかける仕事を担当した。参加者はこれを楽しみにしているので責任重大だと感じたが、ランナーにかけるとたちまち歓声があふれ、そんな姿を見た自分も幸せな気分になるという初めての体験をした。

「きっかけは、大学では学べないことが得られるのではという思いがあったからです。実はこれまでも数多くのイベントに学生スタッフとして関わってきました」。その思惑通り、現場で経験を積むうちにわからないことは率先して尋ねるなど、積極的に取り組む姿勢が身に付いたという。今回も手が空くと自ら仕事を見つけて対応する平

振り返ってみると、これまで携わったスポーツイベントは参加者も観覧者もみな笑顔だった。「今回、あらためてスポーツには人をハッピーにする力があることを実感しました」。自分が学ぶスポーツビジネスの意義が再確認できたことは、何よりの収穫だったと思っている。



防 犯ボランティアは大学の総務委員会や学友会、大学祭実行委員会の委員を中心に組織されるグループ。大学周辺は街灯が少なく夜間には真っ暗になる場所もあるうえ、不審者情報が寄せられることもあり、そのため学生に「防犯意識を持つて」と活動している。

リーダーの飯屋崎まいさんは、大学の勉強以外にいろいろな人と活動したいと強く思い、防犯ボランティアに参加。メンバーといっしょに学校周辺の危険な場所を調査し、学生間で共有するための防犯マップを作ったり、折尾警察署と力を合わせて性犯罪やひったくりに注意する呼びかけチラシを配ったりしている。「秋には市職員や地域の小学生と防犯マップを作り、危険箇所を再確認するお手伝いをします」。このような継続的な活動が評価され、折尾警察署から感謝状が贈られた。

また、福岡県警が県内の大学の防犯ボランティアを集めて行った研修会にも参加した。「たくさんさんの学生と出会え、防犯面だけではなく、社会的な視野も広がりました」

こうした活動にもかかわらず、学生の防犯意識がなかなか変わらないことが飯屋崎さんの悩み。「防犯のためにどうすればいいか、伝える難しさを今、感じているところです」

今春、折尾警察署からの要請を受けて防犯パトロール車「青パト」が導入された。福岡県内の女子大が青パトによるパトロールを行うのは初めてということで注目され、地元のテレビや新聞にも紹介された。

秋の学園祭に向けていよいよ本格的な活動に入る。これらをきっかけに学生が防犯について考えてくれればと期待を高めているこの頃だ。

もっと高めたい学生の防犯意識 青パト導入による 犯罪抑止力に期待

九州女子大学・
九州女子短期大学
防犯
ボランティア

飯屋崎 まいさん
九州女子大学 家政学部 栄養学科3年
(九州国際大学付属高等学校出身)

飯屋崎さんが所属する総務委員会は、学生自治の中心組織として学生がキャンパスライフを楽しく送るための活動をしている。防犯ボランティアでは、リーダーとして20名いるメンバーが無理なく活動できるようこまめな連絡を欠かさない。また、活動の趣旨をわかりやすく説明するのもリーダーの務め。

防犯パトロール
実施中



山形 翔平さん
九州共立大学 経済学部 経済・経営学科4年
(福岡県立門司大翔館高等学校出身)

「ちょボラ」では老人福祉施設での介護補助や「折尾まつり」の準備、小倉市制50周年記念イベントのウォークラリーの案内役など、さまざまなボランティア活動に参加した。九州共立大学は運動部が清掃活動に取り組み、地域貢献や奉仕に積極的な気持ちを持つ学生が多いと感じている。

堀川
一斉清掃
ボランティア

清掃に参加して再認識したこと ボランティアとは 自分で考え、動くこと

九 州共立大学の最寄り駅、JR折尾駅近くを流れる堀川は、江戸時代に運河として整備された歴史遺産だ。ただし近年は川へのゴミ投棄が問題になり、清掃活動が始まった。活動は15年も続いており、参加者は500名を超える規模に成長している。

末永勝昭ゼミを通して昨年と今年の2回、堀川清掃に参加した山形翔平さんは同大のボランティアサークル「ちょボラ」の一員。すでに多くのボランティア活動に参加してきたおり、キャリアは十分あった。ところが、1回目の清掃の時、「自分が何をすればいいのか、分からないまま終わってしまったのです」

今年はその反省から、堀川の歴史を事前に調べ、当日は周囲の落ち葉や雑草を集める係、運河の中に入ってゴミを拾う係など、自分で役割を見つけて行動した。きれいになった堀川を眺めながら再認識したのは、「無

償のボランティアだからこそ、自分で何をすればいいか考え、行動しないといけない」ということだった。

4年生になって「ちょボラ」を引退した今、自主的に学校周辺のゴミ拾いをしている。なぜそこまでやるのか。

「奉仕は対価が支払われない分、純粋に『やりたい』という気持ちだけで行動できるうえ、そんな自分勝手に対して『ありがとう』という言葉をかけてもらえらる。その時の理屈抜き心地よさは何物にも代えがたいからです」

こういう経験を経て得た人の役に立ちたいという気持ちは、社会や職場での活動をスムーズに行うために必要だと考えている。そんな思いを実現するために、卒業後は接客などを通して人とかわり、みんなを笑顔にできる仕事を志望している。



長年の清掃活動で堀川も美しさを取り戻してきた。結果が見えることも、やりがいに繋がる。

業務では利用者の『ありがと
う』というひと言や、ボラン
ティアスタッフの名札を付けて

付けて対応した。
その甲斐あって「カウンター
業務では利用者の『ありがと
う』というひと言や、ボラン
ティアスタッフの名札を付けて

驚いた。
そんな忙しいなか、職員から
はカウンターでの対応や配架の
方法などを教えてもらい、あ
らためて図書館業務の楽し
さや、やりがいを感じるよう
になった。だからだろう、ボ
ランティアとはいえ図書館運
営スタッフとして自覚を持ち、
職員への連絡・報告をこまめ
に、利用者には言葉遣いに気
を付けて対応した。

図 書館司書を志望する今瀬
菜波さんは2年生の終わ
りの春休み、本学教授から図
書館ボランティア募集のこ
とを知り、中間市民図書館
で業務に携わった。



学童ボランティアの活動が認められ、先輩が学生模範証表彰を受けたことは蛸原さんたちの誇りでもある。

成 長期の子どもへ食の大切
さを伝えたい。そういう
思いから中学・高校の家庭科
教員をめざす蛸原麻貴さんは、昨
夏から学童保育クラブでの保
育ボランティアに参加している。
「きっかけはゼミの先輩が参
加していたこと。積極的に取
組んでいる様子を見聞きして
いるうちに、教師をめざす自分
にとって子どもと関わることで
きる貴重な機会だと思い、私も
参加を決めました」

多いときは週3回というペー
スで大学近くにある学童保育所
に通い、校庭で遊んだり宿題を
教えたりしながら放課後の時
間を共に過ごす。
小学1年生から6年生まで、
年齢の異なる100名以上の子
どもを7名の指導員と7名の学
生ボランティアで見守るが、初
めのうちは大勢の子どもに目配



LIBERTY [リバーティ]

るせいか
『がんばっ
て』と激励
を受けて、うれしい思いをす
ることが多く、司書になりたい
という気持ちが高まりました。
将来は絵本の読み聞かせな
ど、児童を中心に本の楽しさ
を伝えられる司書になりたい
と思っています。ボランティア
を体験したことで、座学だけ
では学べない図書館業務の
仕事や雰囲気を知ることが
できた。この体験は大きな
自信となり、難関といわれ
る司書採用への道を乗り
越える原動力となるはずだ。



大学図書館ではひとつのテーマに沿ってコーナーをつくり、来館者の興味を引くようポップに知恵を絞った。



Cooperation
中間市民図書館
図書館
ボランティア
to the future!

ある時、食事の取り方に問題
がある子どもがいることを知
り、子どもたちといっしょに手
作りした食育カルタやタペス
トリーを使って遊びながら食
べ物に対する興味を高めるこ
とを始めた。「楽しそうに野
菜の名前や特徴を覚える子
どもの姿を見ていると、自
分の選択に間違いはなかつ
たと思っています」。
蛸原さんは、そうきっぱり
言い切った。

Cooperation
学童クラブ
保育
ボランティア
to the future!

私の学びを大いに高めてくれた 放課後の子どもたちと 過ごした時間



LIBERTY [リバーティ]

今瀬 菜波さん

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科
人間基礎学専攻3年
(飯塚高等学校出身)

趣味は読書。中学時代から部活動で吹奏楽部に
参加していたことから「リバーティ・ウィズ」の主
将として部員を統括する。最近、授業の一環で大学
図書館の一角に利用者が興味を持ちそうな本を集
めたコーナーを作り、ポップも制作した。図書館ボ
ランティアの実体験が少し役に立ったと感じている。

蛸原 麻貴さん

九州女子大学
家政学部 人間生活学科4年
(日章学園高等学校出身)

小さな頃から食への関心が高く、短大に進学して
フードデザインの仕事を視野に民間企業への
就職を志望していた。ところが、中学校の教育
実習を通して伝えることの大切さやおもしろさ
を実感。九州女子大学に編入し、食育に強い教
員になろうと決意し、授業や教員採用試験の準
備で忙しい日々を送る。



Kyushu Women's University

Kyushu Women's University

私が 教えている こと

九州共立大学
Kyushu Kyoritsu University

キャンプなどの野外活動を通じて、障がい者スポーツ支援などを通して、学生の成長のサポートを行う。

キャンプといえばアウトドアレジャーというイメージが強い。だが、取り入れ方によっては学生の成長に有効と花田先生は考えている。

指導するキャンプ実習では、屋久島で登山やカヌーを使った川下りなど多彩なメニューをこなしながら4泊5日の野営をする。ユニークなのは、食事の準備に燃料として使う薪拾いから実習を始めること。「雨が多い屋久島では、蒔になりそうな枝はほとんど湿っています。火を起すことさえ不慣れな今の学生にとっては試練です」

だから初日は深夜になっても食事にありつけないことがよく起こる。しかし2日目になると、



キャンプで使う飯盒とノコギリ。拾った薪に火を着けやすくするためノコギリをどう使うか、学生の知恵が試される。

野外活動を通し、 自ら考え先を読む力育む チャンスに果敢に挑戦する学生を応援

昼間の移動中に乾いた薪を拾い、湿気を帯びないようビニール袋に入れるようになる。さらに3日目、4日目と経つうちに火起こしは早くなり、調理も役割を分担し手際がよくなる。「失敗することでも次にどう動けばいいか、予測して行動するようになるんです」

仲間と協力して何かをやり遂げるこのような体験はチームワークを育む。「集団に埋没し積極的に行動する機会が少ない学生や、競技で勝つことだけにこだわる学生にぜひ体験してほしいですね」

長年、携わっているのがスポーツ支援スタッフの育成だ。その一環として、発達障がい児のために開いた「ニコニコ体操教室」や地域の子どもたちを対象とした「ジュニア体操教室」に、アダプテッド・スポーツ研究部の学生をかかわらせる。「運営や指導は学生が中心となっており、自ら考えて行動するよう促します。社会と交わることを通して、やがて礼儀が身に付き、周りに対して気遣いができるようになるという。」

そんな成長の姿を通し、学生がどう変化していくかという研

※アダプテッド・ スポーツ研究部

アダプテッド・スポーツとは障がいのある人や高齢者、体力の低い人でも参加できるスポーツ。ルールや用具を障がい者をはじめ、その人の体力に応じて適合(adapt)させる。当部は部活動の一つで、部員は九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学にわたる。



屋久島でのキャンプ実習

究にも取り組む。体験前と後に学生に数十項目にわたってアンケートを取り、データを集積。EQ(心の知能指数)へどう影響したかなどを数値化し、論文にまとめている。

常に学生に望むのは、自らチャンスに気づき、果敢に挑戦すること。「チャンスは人から教えられるものではありませんから」

一方で、少しでも多くのチャンスを生学生の成長につなげたいと思う。だから、各地にもっとネットワークを構築し、活躍の場を広げるべく東奔西走している。

九州共立大学 スポーツ学部 助手

花田 道子

九州女子短期大学体育科卒業後、同大学体育科助手に就任。平成12年より現職。専門分野は野外活動(CAMP)、レクリエーション、障がい者スポーツ支援。発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」に関わるほか、地域貢献としてスポーツ教室やレクリエーションの指導、スポーツボランティアスタッフの指導を務める。福岡県キャンプ協会理事、北九州市スポーツ推進審議会委員、福岡県社会教育委員。

私が 教えている こと

九州女子大学
Kyushu Women's University
Kyushu Women's Junior College

幼稚園教諭・保育士をめざす学
生を指導。グリーンティーチャー
の派遣も担当し、学生のアシス
トを行う。

助産師・看護師として10年以
上の臨床経験を持つ春高先生。
市町村での乳幼児健診や保健指
導の経験も豊富なため授業は具
体性に富み、わかりやすいと好
評だ。

だが、学生には厳しく臨む。
「みんな真面目に勉強しますが、
スケジュール管理が苦手、報告・
連絡ができないなど、社会人と
しての基礎力がまだまだ身に付
いていません」。問題点は一人
ひとり違っているが、3・4年
次の研究指導ではそれを見つけ
出し、改善に向けて根気よく指
導する。社会で待ち受けている
厳しい現実に向けて欲しくない
と願っていることだ。

九州女子大学が平成24年に始
めた幼稚園・保育園へのグリー
ンティーチャー派遣では、担当
教員として多くの学生を送り出
してきた。少子化のなかで育っ
た現代の学生は子どもと触れ合
う機会が少なく、保育実習で初
めて子どもと向き合うことも多
い。そこで人間発達学科では学
生を進路に応じて幼稚園・保育

保育現場を経験すると 学生は確実に変わる 自らの手で人生を開く女性育成が使命



園にボランティアとして派遣。
子どもの遊びや生活援助、製作
物準備、清掃など多方面で現場
を手助けする。

活動は夏休みや試験期間を除
く週1日。「このくらいの期間だ
と、学業に支障をきたさないし、
園側も受け入れやすいんですね」

学生を受け入れてくれる園の
開拓も人間発達学専攻の先生方
と協力して行う。これまで15園
ほどに317名を派遣した。「な
るべく学生の負担にならないよ
う居住するエリアにも派遣した
いと考えています。遠いところ
では佐賀県の園にもお願いした

ことがありました」

さらに派遣初日のオリエン
テーションには必ず同行。学生
の服装チェックに始まり、園へ
の挨拶、必要書類への記入の仕
方など指導を行う。そして、派
遣終了後は学生の評価を園に聞
き取り、反省会を実施。課題点
は学生にフィードバックする。

「現場を体験した学生は確実に変
わりますね。子どもにどう接し
ていいかわからなかった学生が、
子どもの表情を見ながら言葉の
かけ方を変えるなど、臨機応変
に対応できるようになります」

学生には強い意志を持って自
らの手で人生を切りひらいてほ
しいと願う。そのための道筋を
つくり、サポートするのが自分
の使命だ。そう強く思い、きよ
うも学生を指導する。



研究テーマは保育
保健。事例を豊富
に取り入れながら
現場の保育士が
共感できる教科
書をつくるのが
夢だ。

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 講師

春高 裕美

産業医科大学医療技術短期大学看護学科を卒業。その後、九州
大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻、武蔵野大学通
信教育学部人間関係学部人間発達学科看護コースで学ぶ。10年
間、助産師として働き、母子の支援を行った。担当科目は「子どもの
保健」「キャリアデザイン」。助産師・看護師としての臨床経験と保
育所での実務経験を生かした具体的な授業に定評がある。

アンプティサッカーで広がった世界 日本代表の 誇りを胸に 仕事に全身全霊

星

川誠さんの大学生活はサッカー一色だった。生

まれつき右膝から下がなく、義足での生活を強いられましたが、サッカーが大好きで、小学校、中学校、高校と、特別扱いされることなく続けてきた。

日本代表を夢見て本学サッカー部に入学したが、これまでとは比べものにならない激しいプレイの連続。「義足が何度も破損し、限界を感じて1年でサッカーを断念しました」その時、設立されたばかりの

九州唯一のアンプティサッカーチーム、FC九州バイラオール

から声がかかった。アンプティサッカーは主に上肢、下肢の切断障がいをもった選手がプレーするサッカー競技。チームはそんな中でも日本選手権大会で優勝を重ねている強豪だ。ひと倍練習し、2012年ワールドカップの日本代表の座を勝ち取ったが、世界の壁は厚く予選を突破することはできなかった。しかし、日の丸を背負う責任感と日本代表という誇りが、人間としてひと回り大きくしてくれたと感じた。

ただ、サッカーに熱中するあまり就職活動には出遅れた。そこへ大学の就職支援課がTOTO株式会社を紹介してくれた。

「当時は面接対策も不十分で、不安でいっぱいでした。しかしありのままの姿を伝えることが、面接官に好印象を与えたのか、見事に入社。現在は営業マンとして新規開拓に東奔西走する。

「入社したての頃は、相手の立場に応じた言葉遣いができず、緊張の連続でした。サッカーチームは上下関係が厳しく、それなりに言葉遣いには自

星川 誠さん

平成26年 九州共立大学
経済学部 経済・経営学科卒業

TOTO株式会社九州支社に勤務。アンプティサッカーチームFC九州バイラオール所属。エースとして活躍し、2012年開催の第9回ワールドカップロシア大会、2014年のワールドカップメキシコ大会に日本代表選手として出場。現在は会社員として務めながらアンプティサッカーの普及活動に尽力する。

信があつたが、社会で求められるコミュニケーションは、別物だった。目標とする先輩は初対面でも相手を会話に引き込み、質問にすぐ答えられる豊富な知識を持つ。「真似できるところは真似て、自分の営業スタイルを早くつくりたいですね」

職場はサッカー活動への理解があり、入社後の平成26年秋、2回目のワールドカップ出場を支援してくれた。恩返しするためにも、今は与えられた仕事に全身全霊を傾ける。

そんな自分があるのも大学の就職支援課のおかげと感謝を忘れない。また、サッカー三昧だったなか、勉強や就活情報を教えてくれた学友もありがたく思う。これまで応援してくれた人や仲間のためにも、仕事とサッカーを末永く両立させるのが目標だ。

pick up!

アンプティサッカー

主に上肢、下肢切断の障害を持った選手がプレイするサッカーで、フィールドプレーヤーは支肢切断者が、ゴールキーパーは上肢切断者が担当する。義足を使わず杖を支えにして競技する。平成22年に日本初のアンプティサッカーチームが誕生し、同時期に日本アンプティサッカー協会も設立された。

九州女子大学
OB・OGインタビュー経験不足を決して言い訳にしない
子どもに寄り添い
信頼される教師に

平田 奈津美さん

平成27年 九州女子大学
人間科学部
人間発達学科卒業

北九州市内の小学校に教諭として勤務。大学では、子どもの成長にかかわりたいという気持ちを持ち続け、小学校教諭をめざし、提携する小学校で指導補助をするボランティア・グリーンティーチャーに4年間携わった。いろいろな世代の子どもとコミュニケーションの取り方が学べ、今に役立っている。

今

年の4月から小学校教諭として働く平田奈津美さん。任されたクラスは1年生だった。「最初は耳を疑いました」。先輩や大学の先生からは、新人は学校生活に慣れた3〜4年生を担当することが多いと聞かされていたからだ。在学中の実習やボランティアでも、1年生を担当したのは数えるほど。不安でたまらなかった。

そんななかで迎えた入学式。保護者の不安げな視線が刺さった。心にスイッチが入った。「新人だから」は子どもには通用しない。自分の力不足で習熟が遅れるなどの迷惑はかけられない

い。「子どもたちをこの1年間で、誰に対しても礼儀正しく思いやりの心もち、何事も一生懸命がんばる子に育てて2年生に進級させよう。そう、決意しました」

面、生活面とも基礎をつくる段階なので、一人ひとりに目線をしっかり合わせ、根気よく指導。できたという達成感を味わえるように心がける。1学期を終えた今、これまで途中で投げ出していた子が最後までやり遂げることが増え、成長を感じている。



まだ幼さが残る1年生には笑顔を欠かず、細やかに指導することを心がけている。



職場や先輩に恵まれた。指導教諭や先輩教諭がサポートしてくれ、具体的なアドバイスをもらえる。わからないことや不安なことは、いつでも訊ねられる雰囲気もありがたい。以前は相手に遠慮して聞きそびれることもあったが、仕事を始めて変わった。「わからないことはすぐ解決しないと、子どもに迷惑をかけます」。失敗しても悩む暇があったら勉強しようと切り替えも早くなり、周りから強くなったねと驚かれる。

大学では教員採用試験の筆記試験対策や、論文の書き方でみっちり指導を受けた。特に面接指導では先生から何度も厳しい言葉を投げかけられた。おかげで本番はリラックスでき、難関を突破できたという。

しかし、いちばん力になったのは同じ目標を持つ友人と過ごした自習室での時間だ。毎日遅くまで勉強し、悩んだ時は励まし合って最後までがんばりきることができた。

目標は子どもや保護者、同僚に必要と思われる教員になること。安心して子どもが頼ってくれる、どっしり構えられる先生に成長したいと願う。



大学祭のお知らせ

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学の大学祭を10月に開催します。イベントや模擬店など、盛りだくさんのお楽しみを企画中です。みなさまのご来場をお待ちしています。

FROM 九州共立大学

『第51回 霜月祭』

2015年10月23日[金]～25日[日]

特設ステージでは沖縄エイサーや「共立のど自慢」、吹奏楽部パフォーマンスなど、わくわくするイベントがいろいろ。模擬店やアーティストによるライブもお楽しみください。

お問い合わせ:九州共立大学大学祭実行委員会 TEL093-602-0035



FROM 九州女子大学・九州女子短期大学

『第55回 華秋祭』

2015年10月23日[金]～25日[日]

毎年恒例のミスコンテスト「プリンセスin九女」やファッションショーなど華やかなイベントを開催します。学部での学びを生かした模擬店も毎年、大人気を呼んでいます。ぜひお越しください。

お問い合わせ:九州女子大学・九州女子短期大学大学祭実行委員会
TEL093-691-2452



九州共立大学同窓会「自由ヶ丘」ホームカミングデー

FROM 九州共立大学

九州共立大学創立50周年記念事業 二宮清純氏 記念講演会

【日 時】平成27年10月24日(土)※同窓会総会開催日 11:00～12:30

【場 所】自由ヶ丘会館4階多目的ホール

ホームカミングデーは卒業生のみなさまを母校にお迎えし、旧交を温め連帯を深めていただくとともに、本学の今を知っていただく絶好の機会です。今年は創立50周年記念事業として、スポーツジャーナリストの二宮清純氏の講演会を開催します。



にのみや せいじゅん

二宮 清純 氏

スポーツジャーナリスト、評論家、株式会社スポーツコミュニケーションズ代表取締役

1960年、愛媛県生まれ。スポーツ紙・流通紙の記者を経て、フリーのスポーツジャーナリストとして独立。1999年6月、インターネット・マガジン「Sports Communications」を設立。オリンピックやサッカー W 杯、メジャーリーグ、ボクシング世界戦などを国内外で取材し、テレビのスポーツニュースや報道番組のコメンテーターとして活動中。一方、地域の発展はそこに住む住民が主人公であるべきと考え、地域と住民を中心とした総合スポーツクラブづくりに尽力している

機能的な学びの空間、新棟「弘明館」 来年4月の利用開始に向け建設進む

FROM 九州女子大学・九州女子短期大学

九州女子大学・九州女子短期大学の新棟「弘明館」の建設が、来年4月の利用開始に向け着々と進んでいます。

弘明館は円形をモチーフにしたデザイン性豊かな建物で、学習目的に応じて広さを自在に改變できるアクティブラーニングスタジオなどを持つ機能的な学びの空間になっています。

また、保育ルームやマナー実習に利用できる茶室を備えるほか、学生一人ひとりが使えるロッカールームを設置し、学生が教科書や資料、私物などを抱えることなくスムーズに教室を移動できるよう配慮しています。さらに、全身を映せる鏡があるパウダールームを設け、品格ある女性らしい姿勢や身だしなみをチェックする場としています。

事務室はワンフロアに集約し、ワンストップサービスで学生が事務手続きできるよう利便性を向上させます。

新棟の一部を地域に開放する新しい試みも行います。例えば、定期的に料理教室を開いたり、保育責任者と学生による保育サービスなどを実施するなど、九州女子大学・九州女子短期大学の基本方針「地域社会のニーズに応じた知の提供」の場にふさわしい活用を行っていきます。

新棟「弘明館」にどうぞ、ご期待ください。

